



(本寺中学校1,2年生による神楽)



(小豬岡豊年田植え踊り)

骨寺村を語る会



2月18日(日)開催



菅原 光聴氏 菅原 光中氏 小野寺 啓氏

「骨寺通信」

第22号

本寺地区地域づくり
推進協議会会報
E-Mail
honedera@mx21.tiki.ne.jp

小豬岡豊年田植え踊りと本寺中学生の 神楽、郷土料理でおもてなし

「骨寺村を語る会」では先生方の講演の他に、郷土芸能である小豬岡豊年田植え踊りや本寺中学校1、2年生による神楽が披露され、参加者からは「踊り手の表情が生き生きしていてとても素晴らしい。今後もぜひ伝統を受け継ぎ、後世に残してもらいたいです。」との感想がよせられ大好評でした。

昼食は地域のお母さん方に前日から準備していただき、郷土料理や黒豆のずんだ餅、黒豆豆腐など地元食材を使った新しい料理を振る舞うことができました。何度もおかわりをしていて人たちが多数見受けられ、「伝統的な料理や地元食材を活かした新しい料理を食べる事ができ、とてもよかったです。今度は山菜を使った料理など、もっと色々な郷土料理を食べたいなりました。料理を作ってくださいました方がとうございました。」との感想を頂きました。

また、会場の東側には四季折々の風景やこれまでの地域づくり活動を収めた写真を展示し、皆様楽しんでいただきました。



(会場に設置された写真コーナー)



(郷土料理の準備風景)



(郷土料理を堪能する参加者)

中世から続く骨寺村の 歴史を学び合う

一関市立本寺中学校体育館で18日「骨寺村を語る会」(主催:本寺地区地域づくり推進協議会・本寺地区区長会)を開催し、一般参加者など約300人の参加がありました。

世界文化遺産登録候補地である「骨寺村荘園」の歴史をより多くの人に知ってもらうため企画したもので、一関市文化財調査員の小野寺啓氏が「伝説の骨寺」と題し、独自の意見を交えた遺跡の解説をしていただきました。また、中尊寺大長寿院西谷坊住職の菅原光中氏、菅原光聴氏が「骨寺村と中尊寺のつながり」と題し、骨寺村が信仰の場であったこと、また、中尊寺の経済的な支援の場としての重要な土地であったことなど、骨寺村との深い関わりについてお話しいただきました。

参加者からは「骨寺村の事を深く学ぶ事ができました。世界遺産になってからも景観を守っていけるよう地元の方々だけでなく、近隣の人と共に保存に協力していきたい。」との声が聞かれました。